

- 問1 弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したものとして最も適切なものはどれか。（2020年 大分県公立入試 類似）
1. 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。
 2. 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。
 3. 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。
 4. 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。
- 問2 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
1. 石鏃
 2. 打製石斧
 3. 石匙
 4. 石包丁
- 問3 日本の「奴国」が中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀前後の、日本と世界の情勢について述べた文として、背景や関連性が正しいものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）
1. 奴国の王は、インダス文明との交易を有利に進めるために後漢へ使者を送り、同時期に中国では仏教が日本へ伝来した。
 2. 奴国の王は、織田信長が行った楽市・楽座のような自由貿易を求めて後漢と交渉し、同時期のヨーロッパでは大航海時代が幕を開けていた。
 3. 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。
 4. 奴国の王は、イスラム教の影響を受けた後漢の制度を取り入れるために金印を求め、パレスチナでは十字軍の遠征が始まっていた。
- 問4 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
1. 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること
 2. 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること
 3. 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭骨がない状態で発見されたりすること
 4. 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること
- 問5 佐賀県で発見された弥生時代の代表的な遺跡について述べた文として、正しいものはどれか。この遺跡は、大規模な堀や土塁を巡らせた集落の跡として知られている。（2026年 大阪府公立入試 類似）
1. 三内丸山遺跡では、縄文時代の大規模な定住集落跡が青森県で確認されている。
 2. 唐古・鍵遺跡では、奈良県において弥生時代の環濠集落や多量の木製品が見つかった。
 3. 登呂遺跡では、弥生時代の水田跡や木製農具が静岡県で発見されている。
 4. 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。
- 問6 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために造られた「高床倉庫」について、床を高く設計した主な目的として最も適切な説明を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
1. 洪水による浸水を防ぐために、海岸沿いの低湿地に集落の全ての建物を配置する必要があったため。
 2. 夏の暑さをしのぐために、地面に深い穴を掘って室内の温度を一定に保つため。
 3. 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。
 4. 敵からの攻撃をいち早く発見するために、建物全体を物見櫓（ものみやぐら）として活用するため。
- 問7 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
1. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。
 2. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。
 3. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。
 4. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。
- 問8 稲作が朝鮮半島から伝わり、人々の生活が変化した時代に使用された道具の説明として、最も適切なものはどれですか。（2018年 北海道公立入試 類似）
1. 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた
 2. 権力者の墓の周囲に並べるために、埴輪が作られた
 3. 魔除けや食物の豊かさを祈り、土製の人形である土偶が作られた
 4. 日本独自の貨幣として、富本銭が発行された
- 問9 福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。（2026年 北海道公立入試 類似）
1. 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。
 2. 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。
 3. 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。
 4. 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。
- 問10 弥生時代、大陸から金属器が伝わったことで人々の生活は大きく変化しましたが、当時の「青銅器」の主な用途と代表的な道具の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）
1. 鋭利な刃物として戦闘に用いられ、剣や矛などの武器の主流となった。
 2. 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。
 3. 頑丈な農具として開墾に用いられ、すきや鍬（くわ）の先などが作られた。
 4. 食料を保存・調理するための容器として用いられ、須恵器などが作られた。
- 問11 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）
1. 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。
 2. 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。
 3. 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。
 4. 気候の寒冷化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。
- 問12 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 奈良県公立入試 類似）
1. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。
 2. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。
 3. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。
 4. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭礼に深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問2	答え 4 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問3	答え 3 奴国の王は、中国の皇帝との外交関係を築くことで自国の地位を高めようとし、同じ頃の世界ではローマ帝国の繁栄とともにキリスト教が成立し始めていた。	当時の小国の王が中国（後漢）の皇帝に使者を送り金印を授かったのは、中国の権威を背景に周辺諸国に対して自国の地位を有利にする目的がありました。この紀元1世紀という時期は、西洋においてはローマ帝国の統一とイエスによるキリスト教の創始という、その後の世界史に大きな影響を与える出来事が重なっています。インダス文明は古代、イスラム教や十字軍、大航海時代などはより後世の出来事であり、奴国の時代背景とは一致しません。
問4	答え 3 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問5	答え 4 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置し、弥生時代の全期間を通じて存在した国内最大級の環濠集落です。二重の堀や物見櫓、V字状に深く掘られた溝などが確認されており、当時の社会に争いがあったことを示しています。奈良県の唐古・鍵遺跡と場所を混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 3 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。	稲作が本格化した弥生時代には、収穫物を長期間保存する技術が不可欠となりました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気による稲の腐敗を防ぎ、さらに柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫が施されていました。
問7	答え 3 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問8	答え 1 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた	稲作が始まり、金属器が使用され始めたのは弥生時代です。この時代には、実用的な鉄器とともに、祭祀用として銅鐸などの青銅器が作られました。土偶は狩猟採集中心の縄文時代、埴輪は古墳時代、富本銭は飛鳥時代のものです。
問9	答え 2 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかつき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化しました。
問10	答え 2 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。	弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりましたが、それぞれの金属の特性に応じて使い分けがなされました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用品として普及しました。一方、青銅器は美しい光沢を持つことから、神をまつる際の祭具や、村の権威を示すための道具として使われました。
問11	答え 3 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出发点となりました。
問12	答え 4 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。